



風の子

糸魚川市立木浦小学校

学校だより No.15

令和2年11月24日発行



新たな命へ サケの採卵・授精

11月19日、能生内水面漁協と理科センターから協力いただき、木浦川に遡上し、子供たちの目の前で捕まえたばかりのサケを使って、採卵・授精を行いました。これは毎年、3・4年生が行っている当校伝統の命の体験学習です。

サケの頭をこん棒で強くたたいて気絶させ、腹を割いて卵を取り出し、精子をかけて授精させるまで、命のリレーはサケを生かしたまま手際よくしなければなりません。心臓が止まると卵や精子に酸素が行かず、授精がうまくいかないからです。

かわいそうだとは思ってはられません。7月の海釣りでも小さな豆アジをやっと触った子どもみんな真剣そのもの。親のサケの命を新たな命へと受け継ぐという重い責任と、新たな命の誕生という神聖さゆえに、手に血が付いてもまったく気にすることなく立派にやり遂げました。

一連の活動は、この日の能生内水面漁協と理科センター以外にも、水槽に流し続ける山の水の管理に地域のお二人、水槽の電源やポンプの管理に当校の管理員など、多くの方々の協力の上に成り立っています。サケの命と地域の方々の熱い思いに感謝します。これから、3月に予定している放流まで、たくさんの新たな命を、責任を持って大切に預かります。

「木浦十二の舞」鑑賞・学習会



11月17日、木浦舞楽保存奉賛会から5名おいでいただき、2つの演目「鏡舞」と「戸隠」を鑑賞しました。

これらは、日本神話の天岩戸^{あまのいわと}の出来事を基に作られた舞で、木浦の舞は300年くらい前から伝わっているそうです。

「戸隠」では、2人の6年生が持つ天岩戸に見立てた板を、舞手がこっけいに奪い取る（こじ開ける）場面で、子供たちの笑いを誘っていました。

奉賛会は、昭和50年に伝統の継承と舞の担い手を育成するために設立されました。その時、会長以外の4名は木浦小学校の3・4・5年生で、そこで学び始めて以来40年以上、伝統を守り続けてこられたそうです。まさに郷土を愛する心、熱意を感じます。会長は、

「木浦十二の舞は、先輩から何百年にもわたって受け継がれてきたことに敬意を払っています。木浦の宝、財産なのでなくしたくありません。子供が少なくなっていますが、何としても続けていくよう頑張ります。」

と、子供たちにお話しになりました。

当校の子供たちも是非、愛する郷土“木浦”の子として、伝統のバトンを引き継いでほしい、それを心の中に一生の宝として持ち続けてほしいと思います。

北前船に思いをさせて 5・6年 鬼舞 伊藤邸見学

11月18日、5・6年生は、鬼舞の伊藤邸を見学しました。当主の伊藤さんから、貴重な資料を見せていただきながら、北前船で栄えた当時のお話をうかがいました。米を中心に北は北海道や樺太まで商い、南は瀬戸内まで船を走らせていたそうです。子供たちは、当時の鑑札や福沢諭吉の書、豪華なふすま絵などを目の当たりにして驚いていました。

伊藤家の北前船伊寶丸の鑑札→



学習発表会 ケーブルテレビ放送

期間 12月13日（日）～19日（土）

時間 6：45～ 12：45～

18：45～ 21：00～

子供たちの頑張りをもう一度。どうぞ、お楽しみに。

